

植物エッセイ

大平 仁一*

節分草の花はかわいい

「蛤蚧もあてにならない雪の量」と思いつつ今年の雪が気になり毎日過ごしている。春に近づくと私は早くセツブン草 (*Shibateranthis pinnatifida*) を見たいと思うことがだんだん強くなり、足はその山に向かう。でも今は飯山の山にはまだ残雪があり、寒さが残っていた。

3月も中旬となり、いよいよ春になり、あの山へ行くことにした。私はうずうずしていた。それは戸倉の山でした。

妻と二人で行って見た。歩くこと 30 分、節分草があった。小さい花でかわいかった。

白く私に笑顔くれた。あっちもこっちにも笑顔だらけで嬉しい。歩くところは枯れ葉が多かった。急な坂で歩きづらく足が重かった。でも花はきれいだった。(写真1)

彼岸花の咲く頃

中野市の寺(谷蔵寺)の北はたくさんの彼岸花が咲いて綺麗でした。その寺の山に 8 体の大きな仏像があります。その大きさも一台のバスほどで金箔があり、それはそれは綺麗でした。その近くに彼岸花も多く咲いていました。この寺には大きなしだれ桜もあり、「卍」の印があり、善光寺の次にすごい寺でした。この寺は一度大火に襲われ、今は再建しております。又、入口の道路よりに清水が出ていて、大勢の人々が水汲みに来ています。そして桜の名所としていいと思います。(写真2)

ミヤマイラクサは瑞穂の里人の山菜だった

いよいよ春、万仏山へ行くときが来た。地元の人達は楽しい山菜取りの日です。この日私達は一番奥の奥へ行き、ミヤマイラクサ (*Laportea macrostachya*) や食べられる草を取った。山の坂を登り、獣(けもの)道を通り、少しこわかった。でも林の中の小道はけものも通るすばらしい小道だ。熊の通った道も



写真1 セツブンソウ



写真2 ヒガンバナ

あり、少しこわい。でもミヤマイラクサの群生がありすばらしい所だった。ここの林は好きだが、こわい気持があったので、いつも大きな声を出すか歌をうたった。

少したつと近くの村人が来て会った。「今日は、朝来のかい?」「うん、おれそんなに早くないよ。」と言いあいながら、でも人に合うとうれしい。少し登ると高さ 50m ぐらいの大岩があった。ここまでくるとミヤマイラクサは少なかった。少しコゴミがあった。(写真3)

きれいな花が送られてきた

花と言っても写真だ。それも 100 枚もあり、私は驚いてしまいました。それも美しく写れて裏には名前が書かれてあった。

その中に一枚、ショウキラン (*Yoonia japonica*) が

* 大平 仁一 〒389-2322 飯山市瑞穂 1166-9



写真3 ミヤマイラクサ

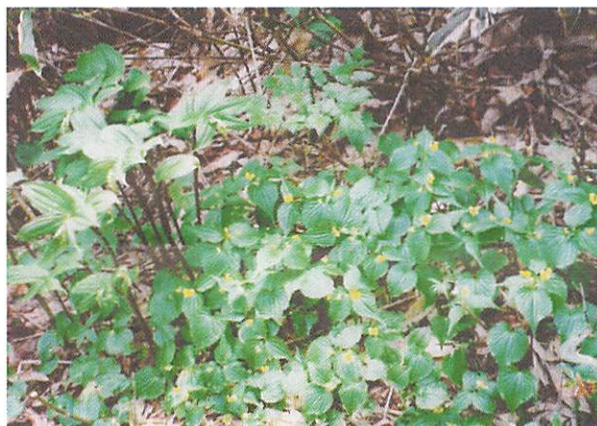


写真6 オオバキスミレ



写真4 ショウキラン

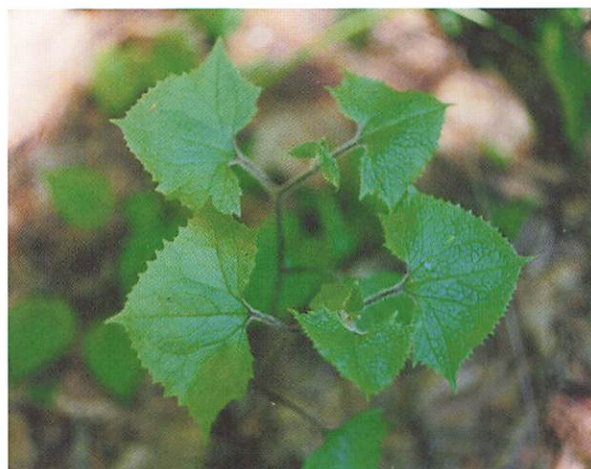


写真7 カニコウモリ



写真5 シラネアオイ



写真8 タケシマラン

あり、私をうれしがらせた。ショウキランは、私もカヤの平で見つけたので、すぐ解った。ピンク色できれいだった。腐葉土や湿った土がある場所に咲く。でも私は美しく見えた。

この写真を送ってくれた人に感謝したい、ありがとう。この花はあまり見られない植物なのでうれしかった。すばらしいものをくれてありがとう。

私は花や植物が一番心の糧になり楽しい。いつも手紙ありがとう。植物は心の豊かさをくれますね。(写真4)

シラネアオイの花

8年前に行ったことのある鍋倉山のシラネアオイ (*Glaucidium palmatum*) を見に友人と行った。8年前はそこにはすごくたくさん咲いていた。急な坂のところ。きれいだった。それを見に行ったのである。鍋倉山の中腹からそれより上の方だった。そこから「やぶ」を下り、急な坂を5分ほどいくと、シラネアオイが少し咲いているではないか。嬉しかった。あっちこっちに咲いていた。うすピンク色をしている。友人も「おい、あるな。よかったな。」と声を掛けてくれた。ここは誰も来れない場所であった。「私達秘密の場所だなあ・・・」と声を掛け合った。素晴らしい急な坂で、木につかまっていなくて滑ってしまうところなのであった。(写真5)

北信でめずらしい花に出会う

私の好きな山の毛無山。そこで花の写真を写すことが私の一番の楽しみであった。ブナなどの大木にかこまれ、チシマザサの多い、湿っているところが私の好きな場所だった。

山遊びに行く毛無山にも、帰化植物のオオブタ草やセイタカアワダチ草が見え、悲しかった。沢の近くに行くと、めずらしく黄色の花が目についた。それはオオバキスミレ (*Viola brevistipulata*) だった。ユキザサ (*Smilacina japonica*) も近くにあった。その時はうれしくて心臓がドキドキした。この場所はシラネアオイ (*Glaucidium palmatum*) も育っている場所であった。(写真6)

カニコウモリやヨブスマソウに出会う

高社山へ登るとブナが一本生えているだけの草原があり、そこに朝早く行くと「カモシカ」に出会っ

た。少し上には窪みがあり、残雪が残っていた。その近くを歩いているとヨブスマソウ (*Cacalia hastata* var. *orientalis*) とカニコウモリ (*Cacalia adenostyloides*) があつた。食べられることを知っていたので、あちこち見渡してみると案外群生していた。そこで、少し取って茹でておひたしで食べた。

この場所にはヤマシャクヤク (*Paeonia japonica*) も所々に白い花を咲かせていた。シュロソウ (*Veratrum maackii* var. *reymondianum*) の茶色い花も咲いていた。飯山では何処でも見かけるイワカガミ (*Schizocodon soldanelloides*) もあつた。

私は、この地の山の花にすごく感謝している。(写真7)

黒姫山にて発見

ワラビ取りに友人と行く。アケビの花が私に癒しをくれた。青空の美しい日だった。空には鳶(トビ)が飛んでいる。でも私にはワラビしか目に入らなかった。10 mほど先には私の好きなハリギリ (*Kalopanax pictus*) が一本林の中に目についた。少し上に登るとハナウドかシシウドがあつた。その近くにタケシマラン (*Streptopus streptopoides* var. *japonicus*) があつた。初めての発見に心が喜んでいた。でも、ワラビはたくさん取った。後から後からたくさんワラビがあつた。

タケシマランの美しさに見とれた1日だった。下を見るとスキー場なので、急な坂の草原できれいだった。山のところにギボウシがあり、山をにぎわしていた。ハンゴンソウ (*Senecio cannabifolius*) も芽を出していた。

ヒメニラの小さな花をみつけた

コゴミを採りに大川部落へ行き、山へ入り、坂のある場所を見つけて登りました。少しコゴミを見つけ、採って袋に入れました。草もあちこちにあり、歩く場所には沢山のコゴミもあり、私たちを喜ばしてくれた。

ヒメニラ (*Allium monanthum*) が目に付き、私を引き付けた。そのニラは純白の花を咲かせていた。斜面を少し落ちた。そのとき、すぐ近くからウサギが逃げ出した。まだ白い毛が少しあつた。私にはかわいかった。

すぐ近くにタラノキがあつた。これも下の方の芽をもらった。きっと、てんぷらが美味いだろう。山

はいいなと思いながら、ふきも採りました。

ここで見るヒメニラは小さいけれどきれいだなと思ひ、この天気の良い山の空気を吸っていた。

自然っていいな

里山を歩くと山菜がある。トリアシショウマやヤマブキショウマが道のあちこちに出ていて、目に付く。ノアザミも時に見える。フキやウドも見えている。たまに福寿草の花が見え、この里山の素晴らしさを教えてくれた。赤い実のエビガライチゴや日陰にはチゴユリのかわいい花があり、私に癒しをくれた。ハリギリは私の好物で、天麩羅はすこぶるうまかった。

この里山にはコシアブラがなかった。でも私の好きな山だった。イヌドウナまたはヨブスマソウは少し深いところへ入るとあちこちにあった。道行くとところにヤマソテツが所々に迎えてくれた。上流部に行くと湿ったところがある。そこにはシダが多く、自然の楽しさに私の心を躍らせてくれた。雑木がいろいろあった。

その上部に、私が役員をしたときに植えた櫟が今は5mにもなっていた。

ジュンサイは昔の話、今は？

昭和の時代、私はよく北竜湖へ行った。そのときは湖水にジュンサイ (*Brasenia schreberi*) が浮かんでいた。

ぬるぬるした植物だったことしかわからなかった。そのときは中学生だった。向こうの島から泳いでこちらまで来た覚えがあった。そのときはジュンサイの上を平泳ぎで泳いだ。覚えがある湖水の1/4ぐらいジュンサイがあった。湖水をきれいにすることで、今は何もない。そのときは5mくらい伸びていた。光のあるところだけ成長していた。山側や日光の届かない場所は成長しなかった。また、あまり深いところは成長しなかった気がする。

この場所へよく来ていたという思い出といっしょに北竜湖を歩いた。島の近くにウバユリ (*Lilium cordatum*) が多く咲き、私に喜びを与えてくれた。その花は白くチャーミングだった。その時、すぐ近くでカモシカが私の方を見ていた。

そんな北竜湖は少し寂しい湖だ。歩くには都合の良いところで、道は砂利だった。そこには私の好きなアケビのつるが多くあった。

チョウセンゴミシの赤い実を見て

山ノ内町へ行く北志賀の砂利道は、楽しい道路でした。でもデコボコで真ん中に水の流れたあとがあり、車にキズがついた。でも周りは林で少しキョロキョロした。

そのとき林の中に赤い実がぶら下がっていた。手を伸ばし取って食べてみた。それはそれは酸っぱくて、甘さは感じられなかった。実はぶどうの房のようにぶら下がってきれいだ、が赤かった。その道の横のあったこちに沢山その赤い実があった。チョウセンゴミシ (*Schisandra chinensis*) だった。

チョウセンゴミシのすぐ近くにアケビ (*Akebia quinata*) が青いままぶら下がっていた。この道は砂利で前の日に雨が降ったのか水たまりが多くあった。また少し進むとあちこちにリョウブ (*Clethra barbinervis*) が白い穂を下げていた。この実が酸っぱい事はわかっていた。でも美しさは「チョウセンゴミシ」が一番だった。

春の一番きれいな花は「ヤマシャクヤク」だと思う。純白の花がきれいな人間の心のように思える。でも夏は「チョウセンゴミシ」の実の赤い色が特別に心を動かす。

そんな私に心の幸をくれたのは妻でした。白馬の2932mを二人で登ったことは、一生の思い出になっている。この頃は介護施設を2ヶ所運営し、忙しかったのだが、「父ちゃん、今日小諸の温泉に行ってくるね」と言うので、私は「ゆっくりな」と言うのと、嬉しそうにしていた。

そんな時が私の幸せと言う、今日です。

ルイヨウボタンの黄色の花

斑尾山へ友人と遊びに行き、山菜取りに少し奥へ行った。そこは私が昨年行ったことのある、奥山のウドブキのあるところでした。ウドブキのある場所のすぐ上にルイヨウボタン (*Caulophyllum robustum*) が咲いていました。

ルイヨウボタンの黄色に咲く姿は私にはすばらしくきれいで、忘れがたい花であった。50 cmぐらいの背丈で、花は小さかった。この急な坂は怖かった。でもすばらしい場所だった。ルイヨウボタンはなぜか小さい葉が多く、直に伸びる姿はかわいくて、私はいつまでも眺めていた。

この近くには山菜が多くあるのに驚いた。この近くの道路は砂利道で、でもきれいでした。すぐ近く

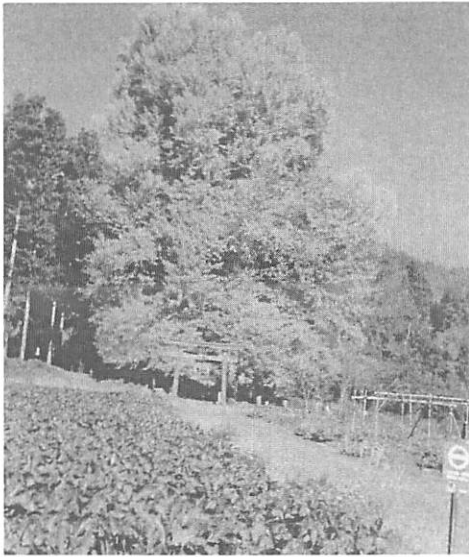


写真9 神戸の銀杏

に川が流れていて、すごくきれいだった。その川の近くに背の高い「わらび」があり、少し取りました。

神戸の銀杏は男である

昔から神戸地区の銀杏の葉が黄色になり全部落ちると雪が降ると言われている。又この木には幹から乳のように垂れ下がった乳根が何本もあり、女（雌）ではないかと思われている。けれど実はならないので、男（雄株）の木である。不自議に葉が全部落ちると2～3日中に雪が降るのである。この事は昔からの言い伝えである。（写真9）

北竜湖周辺の山々に草花がたくさんある

湖の周りを歩くのが好きな私は、いつもこの湖に来る。そこにはウバユリ（*Lilium cordatum*）やウツボ草（*Prunella vulgaris* ssp. *asiatica*）やイカリ草（*Epimedium grandiflorum* var. *thunbergianum*）がある。また時にはギンラン（*Cephalanthera erecta*）やウリノ木（*Alangium platanifolium* var. *trilobum*）がある。小さいが面白い花が咲いている。そうこうしているとすぐ近くに春蘭（*Cymbidium goeringii*）やエビネ（*Calanthe discolor*）があった。日影にはウリノ木が白黄色になっていた。

私には、この場所には多くの花があるのに気づく。雑木の中に沢山の自然の花があり、山ユリ（*Lilium auratum*）もあった。でも私にはなぜかわからなかった。素晴らしい雑木林で春蘭がたくさんあった。こ

の林の通りはカタクリ（*Erythronium japonicum*）も多くあり、私の素晴らしい心の場所にしておきます。

また少し先へ行くと「カモシカ」と目が合ってしまう。先に行くと悔の木があった。ここから下を見ると湖が青くきれいに見えた。木と木の間から湖を見ながら、私は素晴らしいと思った。

いつか私は一周も二周もこの湖を一人で歩き、よく歌っていました。その歌とは「山の牧場の夕暮れに」で、軽快に歩きながら歌った。この湖の周りは私の歩くところになっていた。今日は「リス」が飛び、木から木へと飛んで行った。

オオマツヨイグサ（大待宵草）

オオマツヨイグサ（*Oenothera erythrosepala*）は月見草として知られている。この花に思い出がある。夏の夕暮れ、妻と連れだって、三水村へ行った。その途中でソバ屋さんがあった。この花は黄色で夕暮れがきれいだった。長い道のりを行くと、そこには石碑があり、手を合わせた。

そこにはコマツヨイグサ（*Oenothera laciniata*）が増えていた。これからはコマツヨイグサが増えるのではないか。二輪咲き背が低いし、日中でも咲いている。大待宵草は一夜草と言われるように夜に咲く。だんだんとコマツヨイグサに変わるのか。土手の工事があるとそのときの土から生えている。私はやはりコマツヨイグサよりも大待宵草の花の咲く瞬間がいいね。一輪の咲くその時がいいね。

その話はいいとして、近くのソバ屋でソバを食べてみた。そこについてきた天ぷらは「大待宵草」であった。ソバはおいしかった。やはり大待宵草は5 cm～7 cmの大きな花で、又の名を月見草で知られる。私たちの懐かしい花で、河原などで咲く、黄色いきれいな花で、私達二人の花でした。

ハリギリの芽の苦みは美味しい

里山を歩くのは私にとって一番楽しいことでした。一番嬉しいのは沢山の植物に出会う事でした。時に蛇に出会うときもある。そんなときは少し後ずさりをする。素晴らしいことである。色々な木の芽があり、知らないものまである。

この間は「あずきまめ」があり、素晴らしい実もあった。そこにあるのは私の知らない未知のものだった。滝があり、苔があり、素晴らしい林もあった。その中でハリギリ（*Kalopanax pictum*）も大変多くあり、

私を嬉しがらされてくれた。そこから 500m 行くと、そこにはヤマグワ (*Morus australis*) や時にヤマウグイカグラ (*Lonicera gracilipes*) 等生えていた。いろんな植物や木があり、私は素晴らしいと思った。そこには素晴らしい林があり、リョウブ (*Clethra barbinervis*) も私の好きな木である。白い花がぶら下がっていた。その花をしゃぼって、塩味がした。そんな木が私には羨ましかった。そんな木の味を私は覚えていた。

この素晴らしい場所はハリギリにとって過ごしやすい場所ではないか。この木の良さを教え、素晴らしいさに私はいつまでも余韻に浸る、素敵な木である。

北信濃での植物の方言について

名前 — 方言

サイハイラン — ハアカリ

ササユリ — コガツユリ

サワオグルマ — ヤチウド

サンショウモ — ウキグサ

スズメノテッポウ — ポサツグサ

タケニグサ — トウトンガラ

スギナ — スエナ

ススキ — カヤ

ゼンマイ — ゼンメ

カヤツリグサ — マスグサ

カタクリ — カタッコ

カキドオシ — ヨウベヅル

オヤマボクチ — ヤマゴボウ

シュンラン — ツマラン

シシウド — セーキンポ

カツラ — オコノキ

アブラチャン — ツシャ

イチイ — トガ

ウツギ — ヤマウツギ

ウスノキ — ヤマウスノキ

ガマズミ — ネコノクソ

オオバボダイジュ — オオバシナ

オオバクロモジ — ヨウジノホ

イワナシ — ヤマミカン

エノキ — ヨノミノキ

オオカメノキ — マルベ

ウワミズザクラ — ネズミザクラ

ヒルムシロ — ヒロモ

アケビ — アカエビ

ヤブカンゾウ — アマナ

ユリ — ヨロ

ヌスビトハギ — コジキノキンチャク

クララ — ウジコロシ

ツノハシバミに会いたくて

ツノハシバミ (*Corylus sieboldiana*) の実に会いに山に入る私は、飯山と新潟県の境に入っていく。その林の中に「シラネアオイ」の群生地を見つけた。そこから離れ、1 km ほど先へ行くと、そこにはツノハシバミがあった。

1 m ほどの木にすずなりに実がなっていて、私は父親がよく採ってきてくれたことを思い出していた。そしてその実を剥いて食べたことを思い浮かべていた。

その後、この林を抜けて少し東に行きました。そこにもツノハシバミがあることに気づき、行ってみた。やはりツノハシバミだった。

そのとき頭に何か落ちてきた。痛かった。よく見たら栃の実だった。大きな木だった。

少しはなれたところにクサギ (*Clerodendrum trichotomum*) があった。私はこの木にあまり良い思い出はなかった。でも花は星のようなきれいな花だったのを思い出していた。今は秋でクサギの花はないが、栃の実には私には嬉しかった。

でも飯山にはまだ、ツノハシバミが残っているのが私には嬉しかった。いつまでもいつまでも残したいこの地に。ツノハシバミは香ばしくおいしかった。すばらしくかわいいし、味もいい。私に素晴らしい心をくれて、周りからはきれいと言われない姿ですが、何か味がある。素晴らしい。

ユウスゲ

夏の頃、赤倉温泉や池の平温泉、関山温泉へドライブに行き、温泉に入った。また、燕温泉に入り、すぐ近くの橋を渡り、惣滝を見学に行き、歩いて温泉まで帰り、その後ゲレンデを通ってみた。

そこには素晴らしい花々が咲いていた。シシウド (*Angelica pubescens*) が多かった。また、少し違うゲレンデにはニッコウキスゲ (*Hemerocallis middendorffii* var. *resculenta*) が多く咲いている。

その中にひと際黄色く咲き、何故か花の向きが違う花があった。ユウスゲ (*Hemerocallis vespertina*) だ。私には離れがたい魅力があった。妻は手で撫でていた。しかもかわいい、かわいいと言っていた。

私はそんな妻がかわいく見えた。70才にもなり、また介護の仕事を立ち上げていた。今日、孫が来て、「ばあちゃん凄いな」と言うと、嬉しいと言った。孫はまだ看護学生だが身長が187cmもあり、私を見下ろして「おじいちゃん」と言うありさまだ。でもこんな孫が可愛かった。

今は秋の花が咲き、行く道から見るあちこちに花がきれいに見える。

そんな自然が私には今の幸せです。でもやはりユウスゲは美しかった。

綿菅（ワタスゲ）の群生地

斑尾の奥の林の中を歩くことを楽しんでいる私は何年もこの林に來ている。今年はいつもとより少し遠くへ行ってみた。山の裏側へ行き、野尻に入ると変わった植物にあった。林道の中は少しさみしかった。でも奥へ進むと沼がありミズチドリにであった。真っ白な花で妻の心のようなだった。進むと赤池があり、少し離れたところに50m×50mほどの沼があり、水はなかった。けれど白い花のじゅうたんが一面に敷き詰められたようだった。きれいな芝生のように見えた。美しいワタスゲ (*Eriophorum vaginatum*) でした。

行く道には大きさ1m以上もあるミズバショウのお化けが多かった。又ここはすばらしい自然のある所だなあと思う。又少し進むとモリアオガエルの卵囊（ランノウ）が木についていた。でもあまり水の無い沼がたくさんあった。

ワタスゲは私にすばらしい美しさと花の心をくれた。植物のやさしさに私たちはたくさんいいものをもらっている。酸素とか。

福寿草は私達の村の花

春先にまず見るのは黄色の花で畑の入口に沢山ある。福寿草 (*Adonis ramosa*) は里山に多くある。又山の近くのヤブには株が大きくなり芽が5つも出たものがあった。

田んぼの畔にもよく福寿草が咲いていた。荒れた畑にはノビル (*Allium grayi*) が大きくなっていた。ノビルの玉は大きくなり、福寿草はきれいな顔で笑っている。昔から地元の人々に大切にされてきた花である。(写真10)



写真10 フクジュソウ

神社のうら庭に

8月に神社のまわりを見ると、裏庭にワニグチ草 (*Polygonatum involucreatum*) が育っていた。しかもまだ草刈りもしないので一尺ぐらいに伸びていた。

この神社の庭に大きな桂の木があった。道ぞいにはケヤキ (*Zelkova serrata*) が青々している。この神社には太い木が多かった。

すぐ近くにクララ (*Sophora flavescens*) があった。誰が植えたのだろうか。昔は便所に入れて虫を殺したものだだった。